

第 19 回 笠良原周辺環境モニタリング委員会 議事録

1. 観測データおよび長期トレンド解析報告

- 調査説明者:
 - 昨年度の概況として、地下水位断面図に示す各箇所最高水位は、鏡ヶ成キャンプ場以外で他の地点では 1～3m 程度高い水位が観測されている。
 - 細谷川の流量は概ね毎時 100 立方メートルで安定しており、低下傾向は見られない。
 - 笠良原の水源では、2025 年 2 月から 3 月にかけて急激な水位上昇が見られた。また、配水量は前年より約 1 割減少している。
 - 学生による長期トレンド解析の結果、笠良原と下蚊屋は年 5cm 程度の増加傾向、鏡ヶ成は解析手法により結果が異なるが、明確な長期減少傾向は確認されなかった。
- 専門機関:
 - 笠良原水源のデータにエラーが含まれているのではないかと。特に笠良原の 3 月から 4 月のデータで水位が高くなっているのは、雪解けの影響か。
- 調査説明者:
 - 確認したところ、水位計の一時的なエラーにより数値が高く出ている箇所がある。通常はマイナス 44m 付近で推移しており、例年と大きな変化はない。
- 事務局:
 - 2 月の急激な水位上昇（約 1m）については、施設内での漏水が原因で一時的に数値が増えたものと考えて間違いではないか。
- 調査説明者:
 - はい、建物内での漏水によるものなので、数値としては正しい（実際に水が流れた）ものである。

2. 流量観測の手法について

- 学識経験者:
 - 流量の換算に公式を用いているが、実際に現場で流量観測（検定）は行っているのか。特に流量が少ない時期は、公式と実際の値が乖離しやすいのではないか。一度プロペラ式流量計などで実測し、確認すべきだ。
- 調査説明者:
 - 現在は検定を行わず、堰の幅と越流高の関係式のみで算出している。長年この方式だが、イメージしやすいよう量で示している。実測の検討については、今後の課題としたい。

3. 農地の状況について

- 事務局:
 - 株式会社花の撤退により、現在は「御机」と「菅野農林」の2事業者が耕作している。撤退した農地は現在、草が生えた状態（休耕）である。
 - 農薬については、劇物に分類されるものは撤退した農場でのみ使用されており、現在稼働中の農場では普通物のみを使用されている。
- 専門機関:
 - 撤退した土地の残留農薬の影響はあるのか。
- 専門機関:
 - 農薬は残留基準に従って適正に使用されており、公式見解としては現在その土地に残留はないという理解でよい。

4. サントリーの状況報告

- サントリー担当者:
 - 年間の配水量は協定値を遵守している。
 - 老朽化した井戸の掘り替えを実施した。以前とは異なる地層から取水しており、2025年11月より運用を開始している。
 - 国際認証である「AWS認証」で最高位のプラチナを全4工場で取得した。今後も適切な水収支管理と情報発信を継続する。

5. センサーと観測体制に関する質疑（委員・事務局）

- 学識経験者:
 - 地下水センサーの「大気開放パイプ」は地表にあるのか。深い井戸（60～70m）の場合、地表と水面近傍で気圧差があるのではないか。
- 調査説明者:
 - 現在は地表の気圧で補正している。水面近傍での補正が必要かについては、メーカーに確認し後日回答する。
- 学識経験者:
 - ポンプ停止後、水位が安定するまでにどの程度の時間がかかるのか。稼働時の水位低下だけでなく、停止後の「回復水位」も持続性の観点から重要ではないか。
- サントリー担当者:
 - 現在お出ししているデータは、生産に使用していない観測専用の井戸のものである。生産用井戸との影響についても、今後データを示せるよう準備したい。

6. 事務局からの報告・その他

- 事務局:
 - 議会から、委員会のやり取りや資料を住民に公開してはどうかとの指摘があった。
 - 企業の機密情報も含まれるため、全てをそのまま公開するのは難しいが、要点をまとめたダイジェスト版やホームページでの公開方法を検討したい。
- 専門機関:
 - 当委員会の出席の必要性について検討してほしい。より現場に近い農業改良普及所のほうが適切なコメントができる可能性がある。

以上